

# 公益財団法人 日本骨髄バンク 第 65 回 業務執行会議 議事録

日 時：令和 2 年（2020 年）1 月 17 日（金）18：00～18：35

場 所：廣瀬第 2 ビル 地下会議室

出 席：小寺 良尚（理事長）、加藤 俊一（副理事長）  
浅野 史郎（理事）、大久保 英彦（同）、鈴木 利治（同）、橋本 明子（同）、  
梶村 岳央（監事）

欠 席：佐藤 敏信（副理事長）、高梨 美乃子（理事）、金森 平和（同）、高橋 聡（同）、  
谷口 修一（同）、小野 高史（監事）

陪 席：村角 真央（厚生労働省 健康局難病対策課移植医療対策推進室）

傍 聴 者：1 名

事 務 局：五月女 忠雄（事務局長）、渡邊 善久（総務部長）、折原 勝己（ドナーコーディネート部長）、  
小島 勝（広報渉外部長）、小川 みどり（移植調整部長 兼 新規事業部長）、吉川 亜子  
（ドナーコーディネート部 指導研修 TL）、関 由夏（関東地区事務局地区代表）、  
清水 志穂（総務部）（順不同、敬称略）

## 1. 開会

開会にあたり小寺理事長が挨拶した。

## 2. 業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第 6 条により本業務執行会議が成立した。

## 3. 議長選出

業務執行会議運営規則第 5 条により業務執行会議の議長は理事長が当たるとされており、  
小寺理事長が議長に選出された。

## 4. 議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は、業務執行会議運営規則第 8 条により議長及び出席し  
た副理事長が記名押印するとされており、小寺理事長と加藤副理事長がこれに当たるとされた。

## 5. 議事録確認

臨時理事会（12 月 9 日）の議事録案を全会一致で了承した。

〔議 事〕

## 6. 協議事項（敬称略）

### (1) 「全国大会 2020」企画進捗状況

大久保理事および小島広報渉外部長が資料に基づき説明した。

<大久保理事>

骨髄バンク推進全国大会 2020（以下、全国大会という）の企画進捗状況を報告する。5年前に制定された世界骨髄バンクドナーデーに合わせ、全国大会を例年9月第3土曜日に開催してきた。昨日（2020年1月16日）1回目の準備委員会を開き、実施場所や日程を検討した。今年の9月第3土曜日は9月19日であり4連休初日である。「宿泊場所や交通機関の確保が非常に難しいのではないかと」の意見もあり、そうした事情を含めて日程を検討した。この件は小島広報渉外部長より詳しく説明する。

<小島広報渉外部長>

第1回準備委員会には大久保理事に委員長としてご参加いただき、事務局長と部長に加えて広報渉外部から広報チームメンバーも参加した。開催地は広島市としている。昨年の大会は長野市で開催した。（来年の30周年記念大会は東京開催なので）今年は西日本で選定したいと考えた。活発な活動実績があり、人が集まるのに便利な場所という点を重視した。広島市には日本骨髄バンク（以下、当法人という）への支援活動が活発な広島国際大学がある。この大学は学生にも適用される「ドナー公欠制度」を2019年に導入した。開催日時は9月26日（土）午後を予定している。世界骨髄バンクドナーデーは9月19日（土）だが、会場の空き状況や大型連休の日並びを考慮した。会場は広島 JMS アステールプラザ（中区市民文化センター）の中ホールを仮予約済みである。アステールプラザは広島市役所の近くにあり、中ホール（547席）以外に大ホールやホテル、スポーツ施設も備える大型複合施設である。プログラムの企画・内容は準備委第2回（3月9日予定）で詰めていきたいと考えている。

以上の説明の後、意見交換が行われ、全会一致で承認された。

(主な意見)

<加藤> 第2部の講演は従来のシンポジウム的なものを想定しているのか。

<小島> 第1部が式典、第2部は講演である。例年、医療講演と移植経験者やドナー提供者の講演である。第3部のイベントは前回の長野大会ではシンポジウムだったが、シンポジウムにするかアトラクショナルイベントにするかは今後詰める。

<加藤> アトラクショナルイベントに付きものだが、それで人が集まるのだろうか。むしろメインテーマをしっかりと打ち出した方が集客できるのではないかと。若者を積極的にリクルートしていこうという点で大方合意している。広島市が好例として選ばれたので、広島市だけではなく全国の若者や若者のリクルートに熱心な方々に集まってもらいたい。場合によっては、大会に先立ち（プレイベント的な）話し合いの場を設けつつ、全国のネットワークを形成していくような全国大会にできれば非常に良い。前回の大会は（長野では初開催だったため）大変だったと思うが、現地のボランティアとのネットワークが形成できた。周到に準備していけば良い大会になる。今年も全国から人が集まるから、そういうことも検討していただきたい。例えば（活動が活発な）沖縄県で大会を開催できなくても、沖縄の方々に来場いただき、沖縄県の例を公表してもらおうことはできるのではないかと。

<大久保> 準備委でも話が出たが、長野の全国大会では色々なマスコミの取材を受けたり、テレビ番組で取り上げられた。今回も広島エリアのボランティアの力を借りながらマスコミを回り、取材してもらえるように準備するよう指示している。

- <浅野> イベントは集客のためだけではないという理解でよいか。移植に関連のある人、例えばドナーだった人、患者だった人、医師らが参加するのか。出演者は無料出演なのか。
- <小島> イベント参加者（講演者やアトラクショナルな出演者）は出演料を払っている。集客という意味では、若者や一般の方々に多く来ていただきたい。骨髓バンクを知り、理解していただく機会にしたい。集客に繋がる出演者が望ましいが、バンクに無関係な出演者は考えていない。去年は移植経験者の木下ほうか氏にご出演いただいた。骨髓バンクに関係があり集客に繋げられる出演者がベストと考える。
- <小寺> 広島に組織委員会（地元の団体）はあるか。そこと連携しながら取り組むという理解でよいか。
- <小島> その通りである。地元ボランティア団体などと連携していきたい。
- <小寺> 地元のエネルギーを上手に吸い上げながら、仲良く実施してほしい。広島は（歴史的にも）移植医療がさかんな地域である。そうした場所であることを念頭に企画を進めてほしい。

## 7. 報告事項（敬称略）

### （1）調整医師の新規申請・承認の報告

吉川ドナーコーディネート部TLが資料に基づき説明した。

令和元年10月31日から令和2年1月6日に新たに申請・承認された調整医師の人数は8名、合計で1139名である。

### （2）寄付金報告

小島広報渉外部長が資料に基づき説明した。

令和元年度12月の寄付は件数2093件、金額は2639万5347円だった。前月より件数が大幅に増えている。12月にバンクニュースを発行して寄付金用紙を同封していることが主因である。バンクニュースを発行する7月と12月は件数や金額が増える。件数・金額とも昨年同月比で伸びている。4月から12月の件数は7816件で、昨年より件数は増えて金額は若干下回っている。12月に大型寄付をいただいたのは読売巨人軍から100万円。ほかにも個人からも多くの寄付をいただいた。

### （3）移植件数報告

渡邊総務部長が資料に基づき説明した。

2019年度の4～12月の累計移植件数は「国内から国内」933件、「海外から国内」が3件、「国内から海外」が8件。ほぼ予算どおりの進捗である。

以上